

視察等報告（復命）書

三次市議会議員 様

報告者氏名 小田伸次

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	小田伸次	経理責任者	藤井憲一郎
視察議員	会派ともえ			
期 間	令和 5年 11月 8日（木）～ 令和 5年 11月 9日（金）			
視 察 先	那珂町KITO DESIGN HOLDINGS・徳島市・鳴門市			
視 察 用 務	人口1000人の山間部の大規模投資事業について・行政が行う「メルカリShops」事業について・エコノミックガーデン事業について			
視察先対応者	・HOLDNGSリテール事業部長  ・徳島市企画政策課SDGS推進室  ・鳴門市産業振興部 商工政策課 			
概要及び所見	・那珂町 地元出身のIT企業事業主が那珂町の元々あった柚子栽培農家を活かすためと耕作放棄地の有効利用のため、事業の持っているノウハウを活かしながら個人資産を利用し手掛けている過疎の町おこしである。面白い取り組みではあるが、事業継続にはいささか疑問が残る。事業が黒字化するか、個人資産が無くなるかの展開の様に思えた。 ・徳島市 本市に先駆け不要公用品を「メルカリshops」でルールを決めて販売しゴミとして出さない様にしている。不用品リストに上がったものは所内の他部署で活用出来ないかあたり、再利用がない物を各部署が「メルカリ」を利用し販売する。意外と壊れた物などでも売れているのも驚きでした。高額商品はオークションにかけるそうです。 ・エコノミックガーデン鳴門 地元中小企業の成長による地域経済の底上げを狙うものである。 条例審議会に産・学・公・民・金・公募市民で構成されているのが凄いと感じた。ビジネスマッチングを行い少しでも企業が成長する様にサポートしている。本市でも研究する余地はある。特に審議会メンバーに民と金融機関が入っている所など。			

令和5年11月20日

三次市議会

議長 山村 恵美子 様

三次市議会 会派ともえ

新家 良和

会派代表者 小田 経理責任者 藤井

会派ともえ行政視察報告書

- ◆視察日程：R5年11月8日（水）～9日（木）
- ◆視察先：KITO DESIGN HOLDINGS（那賀町）、徳島市、鳴門市
- ◆視察内容：地域おこし、メルカリshops事業、エコノミックガーデン事業について
- ◆視察者：小田伸次、弓掛元、藤井憲一郎、月橋寿文、新家良和
- ◆旅費明細：旅費明細等は、別途報告済み
- ◆視察所感：視察内容について考察する

1. KITO DESIGN HOLDINGS（徳島県那賀町）

今回訪問したKITO DESIGN HOLDINGS（株）は、徳島県の南西部、高知県との県境に位置する合併前の那賀郡木頭村にあたる。現在は那賀町の一部であるが、木頭は「四国のチベット」と呼ばれ1,000m以上の高山が20近くも連立するロケーションである。人口1,000人の山間地で、高齢化率も60%を超えるという正に限界集落である。この地域に「奇跡の村を創る」というコンセプトで、木頭出身の電子書籍事業を中心に成長した（株）メディアドウの「代表取締役」が、2017年に設立されたグループである。資本金は1億円で、持ち株会社として①日本一の木頭ゆずを栽培し、日本各地、世界へ届ける「（株）黄金の村」、②木頭ゆず専門のスイーツの店舗「柚子の木」、③木頭の大自然が体験できる「CAMP PARK KITO（株）」、④木頭の魅力や文化を伝えるカフェ事業「YUZU CAFE」、⑤世界一美しいコンビニ「未来コンビニ」、⑥閉鎖した旅館をリノベーションした滞在型ゲストハウス「Next Chapter」、⑦キックボクシング道場がある健康と憩いの場「NISHIU de repos」などを運営している。

自らの故郷に対するオーナーの愛着を強く感じた。消滅していくかもしれない故郷に危機感を感じ、コンセプトにあるような想いで、事業の成功を故郷に還元するよう資本投下をされたものと受け止めた。雇用機会の拡大や人口減少に歯止めをかけ、交流人口を拡大し町

の賑わいを創出することが、目的の重要事項であったと思う。グループ設立6年経ったが、人口の増加はなくむしろ微減であると感じた。投資金額や売り上げ等、具体的な数値については聞けなかったが、損益状況については厳しいものを感じた。

オーナーの故郷再生にかける想いには共感できるものの、高齢化率が60%を超える限界集落を定住人口増加、交流人口拡大に繋げていくことは、極めて困難であると感じた。5年後、10年後の木頭地区がどのようなになっているのか、大変興味があるところである。

三次市においても似通った地域は沢山存在する。限界集落への取組は、高齢化、医療、介護、公共交通、買い物、農業の後継者問題、鳥獣被害、小・中学校の統合等々、極めて困難な状況に直面している。具体的な処方箋を見出せないのが現状である。

2. 「メルカリ s h o p s」事業について（徳島市）

徳島市は、昨年7月メルカリ s h o p s と包括連携協定を締結し、本年2月「徳島市メルカリ s h o p s」をオープンさせている。三次市に於いても、本年5月（株）メルカリと包括連携協定を締結し、ショップが開設された。三次市の取組への参考とするため、先進地の取組状況を視察した。

徳島市の本施策に対するコンセプトは、SDGsにあると伺った。循環型社会を目指すため、リユース文化の浸透に向け市民自身によるリユース活動を促進させることや、行政自らがリユースに積極的に取り組んでいる。その一環として、「メルカリ s y o p s」のオープンがある。①ガイドライン策定の趣旨、②不要物品処分の基本フロー、③不要物品の売却、④不要物品の廃棄、⑤企業会計で購入した物品の取扱い、⑥売上金の分配、等について説明を頂き質疑を行った。

出品の頻度は、3カ月に1回程度で行っている。上限額を30万円以下と定め、予定価格が30万円を超える物品については、官公庁オークションなどで実施している。リユースを主眼に、低額物品多く取扱っている。いずれ出品する物が枯渇するのではないかと心配したが、市役所庁舎内には不要品がいくらでも生まれてくると、説明担当者は断言された。主な出品物の事例は、①市バスで使われていた整理券発行機（11,000円）、②市立図書館で除籍となった図書（550円）、③廃園となった幼稚園で使っていた楽器セット（2,000円）、④広報業務に使用していた一眼レフカメラ（5,500円）などであるが、故障したカメラでも売れたということである。職場での取り組みを加速するため、売却担当部には予算策定時インセンティブ加算をしていることや、企業会計と一般会計は売上金を区分して入金していることなど参考になることが多かった。

三次市に於いても、金額の大きな車両、土地、建物などは競争入札で、また少額品は不要品即売会を定期的実施し、不要資産の減少や自主財源の確保に努力をしている。この度のメルカリ s y o p s のオープンにより、一層の取組強化を期待したい。徳島市の課題として、予算策定へのインセンティブを付けても各部局間での取り組みへの差異は否めないとの事

である。自主財源確保と不要資産削減のため、各部署が積極的に取り組む必要性を強く感じた。

3. 「エコノミックガーデニング」事業について（鳴門市）

エコノミックガーデニングとは、企業家精神溢れる地元の中小企業が活躍できるビジネス環境をつくり、地域経済を成長させることにより地域経済を活性化させる政策のことである。鳴門市に於いては、地域経済を「庭」、中小企業を「植物」に見立て、地域という土壌を生かして地元の中小企業を大事に育てることにより、地域経済の活性化を図るとしている。

H24年度からエコノミックガーデニングを開始し、「産・学・公・民・金」が連携し条例審議会を構成し、H28年9月「中小企業振興基本条例」を策定し施行している。市役所の担当職員が、年間100社を目標に企業訪問を実施している。H28～R4年度迄の7年間で961社を訪問し、問題や課題を直接企業から聴くことにより、支援施策に生かしている。中小企業振興基本条例の制定を契機として、意欲的に事業に取り組む中小企業等を支援するため、「鳴門市頑張る中小企業応援パッケージ事業」として補助制度を創設している。H28～R4年度迄の7年間で、79件の支援を行っている。三次市に無いと思われる補助制度として、事業拡大支援事業（上限額200万円、補助率1/2）、販路開拓支援事業（上限額国内20万円、国外40万円、補助率1/2）、知的財産権取得支援事業（上限額20万円、補助率1/2）があり、活用する中小企業が多く、活性化していると感じた。

鳴門市は、エコノミックガーデニングに取り組み初めて10年が経過した。新型コロナウイルス感染症、原油等エネルギー価格の高騰、急激な円安の進行、急激な物価高騰など、10年間で社会・経済情勢は大きく変化し、中小企業を取り巻く環境の変化に対応した取組が求められている。エコノミックガーデニングの推進により生まれた、地元企業との顔の見える関係性や産・学・公・民・金の関係機関とのネットワークを生かし、都市部企業と地元企業のビジネスマッチングにより、サテライトオフィスを誘致する新しい施策に取り組んでいる。具体的な成果は、今後の課題である。

三次市に於いては、企業誘致はほぼ飽和状態であり、新たな産業用地を整備しても進出する企業はこの先見えていない。サテライトオフィスの誘致も遅々として進まない。地元中小企業を活性化させるエコノミックガーデニングは、参考とすべきではないかと考える。

以上

研修等報告（復命）書

三次市議会議員 様

報告者氏名

弓掛 元

下記のとおり、研修が終了したので報告します。

	会派代表者	小田伸次	経理責任者	藤井憲一郎
視 察 議 員	弓掛 元			
期 間	令和5年11月8日（水）～11月 9日（木）			
研修先	KITO DESIGN HOLDING 徳島市役所 鳴門市役所			
研修要務	木頭地区の再生の取り組み メルカリSHOP事業 エコノミックガーデニング			
研修講師	KITO DESIGNリテール事業部長 〇〇〇様 徳島市企画政策課 〇〇〇様 鳴門市商工政策課 〇〇〇様			
概要及び所見	KITO DESIGN HOLDINGの〇〇〇様からは徳島県の山の奥の奥の人口1000人を割る木都地区で文化、人、生活を未来へと紡ぎ文化、産業、観光をクリエイティブに世界へ発信しておられる様を詳しく教えて頂いた。デザインの発信、未来コンビニの運営、柚加工で産業振興、観光客誘致など多岐に渡り目の当たりにした。本市の人口の少ない地区の振興においても大変参考になった。 徳島市においては官公庁の不用品の売却をメルカリで行なう事業をされている。規模も大きいがリユースの取り組みが大変積極的で本市においてもメルカリ以外でも大変参考になりしっかりと提案して行きたい。 鳴門市においてはエコノミックガーデニングと言う事業を学んだ。この事業は、行政自体が事業振興を積極的行い、商工会議所、商工会まかせにしていない所に大変、感銘を受けた。自分自身、議員になるときの意気込みを思い出した。本市の産業発展、企業支援に是非、活かして行きたい。			

視察報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者指名 藤井憲一郎

下記の通り、視察研修が終了したので報告します。

記

視察議員 会派ともえ 5名(小田伸次、新家良和、弓掛元、藤井憲一郎、月橋寿文)

期間 令和5年11月8日(水)～11月9日(木)

視察先 ① KITO DESIGN HOLDINGS
② 徳島市役所
③ 鳴門市役所

視察用務 ① 限界集落活性化への取組について
② 「メルカリshops」事業について
③ 「エコノミックガーデニング」事業について

視察先対応者 ① 〇〇リテール事業部長
② 〇〇議会事務局次長 〇〇議会事務局主事
〇〇企画政策課SDGs推進室課長補佐
③ 〇〇副市長 〇〇副議長 〇〇議会事務局主査
〇〇商工政策課長

概要及び所見 ① 徳島県那賀郡那賀町は、平成の大合併時5カ町村が合併して発足した自治体である。面積は本市とほぼ同等の694平方キロを有しながら、総人口は6600人余りである。目的地へ向かう道も整備されていない部分もあり、まさに「酷道」であった。そのような場所にコンビニエンスストアやレストラン、宿泊施設に格闘技のジムもあるとメディアで取り上げられていたのを拝見し、レクチャーを受けたい旨を伝え、実現したものである。まずはコンビニエンスストア「未来コンビニ」を視察。生憎の定休日ではあったが、ガラス張りの店内には特産品から地域の皆さんの為の日用品が並び、特徴ある外観は観光スポットにもなっており、イベント会場にも使用されている。若者に対しての新たな雇

用も生まれているとのお話も伺った。

ブランド柚子の6次産業化については、特産品の「木頭柚子」を果汁として出荷し4億の売上有るとともに、スイーツの世界大会優勝作品にも採用されるなど、積極的な販路拡大に努めている。訪れた時期が収穫期であり、学生アルバイトなどを募集して作業をされていた。

レストラン、多目的ルーム、格闘技ジムが入る施設で研修をうけたが、その他にも空き家を改修した民泊施設やキャンプ場も有しており、人口1000人を切る「木頭地区」に、何故こんな施設が出来たのか、そこが最も気になる所であるが、出身者の電子書籍を扱う上場企業経営者より故郷への恩返しとの思いから、始まった事業であるとのことであった。事業発作にあたって地元民や行政、農協との調整についても、積極的に質疑応答がなされました。

- ② 三次市でも始まった、不用物品をネットで販売する「メルカリshops」事業について、早くから取り組んでいる徳島市役所を訪れ、現状と課題についてレクチャーを受けた。

徳島市は「SDGs未来都市」をキャッチフレーズに、環境政策に積極的な自治体です。「SDGs推進室」を設け、庁内のパソコンには、課内での不用物品が全職員で共有される仕組みもある。より多く販売した部署には予算も多く付けられる仕組みも興味深かった。粗大ゴミは破碎回収の為、販売対応が出来ないとの事。

リユースのみならず、行政職員に「売って稼ぐ」意識が生まれる良い事業だと思うので、引き続き注視していきたい。

- ③ 「エコノミックガーデニング事業」は、鳴門市を花壇と想定し、地元企業を育てようという施策である。

商工会議所や広域商工会の役割だと思っていた企業訪問を、市職が年間100社を回り情報共有や支援策などを協議している。事業の審議会には金融機関も入っており「オール鳴門」感が見て取れ。自主財源の乏しい本市にとってどう落とし込めるのか、引き続き調査研究していきたい。

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名

月橋寿文

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	小田	経理責任者	藤井
視 察 議 員	ともえ 5名 小田・新家・弓掛・藤井・月橋			
期 間	令和5年11月8日（水）～ 令和5年11月9日（木）			
視 察 先	1 KITO DESIGN HOLDINGS 2 徳島市役所 3 鳴門市役所			
視 察 用 務	企業や他市の取組を研修し、三次市政に活かす			
視察先対応者	KITO DESIGN HOLDINGS リテール事業部 部長 徳島市役所 議会事務局 次長 主事 企画政策部 企画政策課 SDGs 推進室 課長補佐 鳴門市役所 副市長 副議長 事務局 主査 書記 商工政策課 課長			
概要及び所見	11月8日（水） KITO DESIGN HOLDINGS リテール事業部 部長 グループ 社員 15名 総勢 50名 木頭ゆず 農林水産省 GI 認定 子供は未来から来た未来人 未来コンビニ 2020年4月開業 30万人が来場 いつもライトアップしてあり星が綺麗 黄金の村 4億売上 マイナス10度から夏40度なので50度の寒暖差 まろやかな果汁が取れる 収穫は3週間だけ 様々な柚子加工品を製造 キャンプ場 宿泊施設 1,000人の村 上場企業経営者が故郷に恩返しするため、トップダウンでゆず加工品を 軸としたコンビニ・カフェなどを構築			

11月9日(木)

徳島市役所 議会事務局 〇〇次長 〇〇主事

企画政策部 企画政策課 SDGs 推進室 〇〇課長補佐

3R リデュース リサイクル リユース(再利用)

行政自らがリユースに積極的に取り組む姿を見せる

→リユース文化の浸透に向けて情報提供を行う

→市民自身によるリユース活動を促進させる

不用物品処分関するガイドライン

不用物品が発生した場合、まず市内の他部署での転活用を検討する

→他部署でも転活用が見込めない不用物品は、廃棄処分を行う前に売却処分を検討する

→売却手続は各課が行う

メルカリ shops

30万円までがルール 年間4回程度出品

入金分は、契約監理課が一般会計と企業会計へ振り分ける

インセンティブ加算 実績を上げた部署

100万円売上したら来年度予算150万円加算

民間企業との連携でSDGsを進めている 現在30社と協定を結んでいる

鳴門市役所

鳴門市議会 〇〇副市長 〇〇副議長 事務局 〇〇主査 〇〇書記

商工政策課 〇〇課長

人口54,000人 くるくるなると令和4年119万人来場

鳴門の渦潮を世界遺産に

エコノミックガーデニング鳴門

中小企業振興基本条例の制定 1,400社にアンケート

年間100社を目標に企業訪問を実施

7名の職員が2人ずつでアポイントを取って訪問

企業間ネットワークの構築

中小企業振興施策検討委員会 産学公民金の情報共有

がんばる中小企業応援パッケージ事業 7年間で79件の支援

サテライトオフィス誘致 都市部企業と地元企業のビジネスマッチング

NARUTO.biz サテライトオフィス誘致専用Webサイト

移住起業アカデミー「NARUTO BOOT CAMP」

起業希望者42人→(プレゼン選考)7人が鳴門で短期起業合宿

政策金融公庫の協力 起業家サークル 大学生がビジネスモデルを作るのは難しい
外国人向けの宿泊施設 塾 らっきょうの加工品など起業

KITO DESIGN HOLDINGS

企業も行政もトップダウンで行う取組も必要で、想いがあれば成功の確率は上がるものと感じました。

徳島市役所

メルカリ事業は、三次も取り入れましたが、現場への周知とやる気をいかに出させるかが、まずは大切と思います。

鳴門市役所

エコノミックガーデニング事業は、職員が企業訪問をするという現場の声を直接聞くことによって、地元企業にメリットしかないですが、職員がそれを続けていくのは、人材の確保が課題であると思います。

年間 100 社訪問とまではいかないにしても、職員の企業訪問はして頂くように願います。